

## 令和8年度 第2次豊川市観光振興推進計画策定委員会 議事録

1 日時 令和8年5月11日（月）9時30分～11時00分

2 会場 豊川市役所 本33会議室

### 3 議題

- (1) スケジュール・年間委員会予定について
- (2) 第1次豊川市観光振興推進計画の振り返り
- (3) 基礎調査について
- (4) アンケート調査について
- (5) 豊川市の観光について
- (6) その他

### 4 出席者

【市長】竹本 幸夫

【委員長】高田 剛司（立命館大学食マネジメント学部教授）

【委員長代理】木和田 恵（市産業環境部長）

#### 【委員】

山本 芳世（豊川商工会議所）

溝口 隆文（ひまわり農業協同組合）

加藤 悦子（公益財団法人豊川市国際交流協会）

平賀菜由美（一般社団法人豊川市観光協会）

小川 和彦（東海旅客鉄道株式会社）

岡田 崇（株式会社トラベル東海）

青山 貴映（地域商社みかわ株式会社）

波多野千恵（料理旅館呑龍）

井口 善之（市民公募）

皆川 由貴（市民公募）

#### 【事務局（豊川市、㈱地域計画建築研究所（AR））】

小野田 敦、佐野久美子、加藤 祐一、平野 隼生

江藤 慎介、石川 俊博、宮 英理子

### 5 会議の公開の可否

公開

### 6 傍聴者数

2名

### 7 会議内容

●あいさつ（市長）：皆さん、おはようございます。ご紹介いただきました豊川市長の竹本です。第2次豊川市観光振興推進計画策定委員会の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

日頃は豊川市政にご理解とご協力を賜り、また本日は大変お忙しいところご参集い

ただき、誠にありがとうございます。

さて、観光の分野におきましては、現在、日本の観光はインバウンドの増加や国内旅行需要の拡大により、順調な回復と成長を見せております。

外国人観光客に関しては、令和7年に過去最高の約4,300万人の来訪者数を記録したところでございます。

また、本年3月には観光立国推進基本計画が閣議決定されております。観光を日本経済の発展をリードする戦略産業と位置づけるなど、観光の持つ力が改めて注目されているところでございます。

豊川稲荷では、72年ぶりとなる午年開帳が開催されます。期間は11月1日から23日まででございますが、4年後の令和12年度にも大開帳が開催される予定でございます。

私のマニフェスト事業として、午年御開帳に合わせて門前通りを石畳風に舗装したり、昼間に見てもレトロ調の雰囲気を感じられる照明器具に取り替えたりする整備を進めております。

そして、大開帳に向けては、スクランブル交差点から大駐車場までの区間について電線の地中化を図ってまいります。また、令和9年度から10年度には、JR豊川駅のエレベーター等の工事を実施してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

それらの体制の中で、オール豊川でしっかりとお稲荷さんを盛り上げていきたいと考えておりますので、どうかよろしく願いいたします。

今年度は、公募により新たに2名の委員をお迎えし、次期観光振興推進計画の策定という重要な役割を担っていただきますことに感謝申し上げます。

皆様の自由闊達なご意見を本市の観光振興につなげてまいりたいと考えておりますので、1年間どうぞよろしくお願い申し上げます。

以上で私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

●あいさつ（委員長）：皆様、こんにちは。この度、第2次豊川市観光振興推進計画策定委員会の委員長を務めさせていただくことになりました、立命館大学食マネジメント学部教授の高田 剛司と申します。

本日は、本来であれば会場に伺い直接ご挨拶申し上げるべきところですが、大学における講堂授業の実施が必須の日程と重なっており、出席ができません。

初回の会議からビデオメッセージでのご挨拶となりますことをお詫び申し上げます。

私は、地域経営、観光まちづくり、地域商業論などを専門として、観光まちづくりプラットフォームの形成や、食を基軸とした観光振興について研究に取り組んでまいりました。

また、前職では自治体の計画策定や地域活性化を支援する業務にも携わってまいりました。

豊川市は、豊川稲荷をはじめとする歴史的、文化的資源、地域に根ざした産業や食、自然、お祭りなど多様な観光資源を有する町であると認識しております。

今回策定する第2次計画は、コロナ禍を経て観光を取り巻く環境の変化を捉え、豊川市の観光が今後目指す方向を示す、大切な計画になるものと考えています。

委員の皆様には、それぞれのお立場やご経験から率直なご意見をいただき、豊川市らしい観光振興の在り方をともに考えていけますと幸いです。

なお、本日の会議につきましては、私が欠席となりますことから、委員長代理として産業環境部の木和田部長に進行をお願いしたいと存じます。木和田部長、どうぞよろしくお願いいたします。

次回以降は、私も会議に参加し、皆様と議論を深めてまいりたいと考えております。

より良い計画づくりに向けて尽力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

●委員・事務局紹介：（略）

●議事（１）スケジュール・年間委員会予定について

【委員長代理】 それでは、議事（１）『スケジュール・年間委員会予定について』、説明願います。

【事務局（AR）】 資料１について説明

●議事（２）第１次豊川市観光振興推進計画の振り返り

【委員長代理】 それでは、議事（２）『第１次豊川市観光振興推進計画の振り返り』について、説明願います。

【事務局（AR）】 資料２について説明

【委員長代理】 それでは資料２について、ご意見を頂戴したいと思います。

【委員】 観光入込客数はどのように計測していますか。

【事務局（市）】 施設やイベント主催者へのヒアリングによる実数と、推計値の２種類を算出しています。

【委員】 市民以外の満足度は計測していますか。

【事務局（市）】 市民以外の満足度は計測しておらず、現段階では計測予定もございません。

●議事（３）基礎調査について

【委員長代理】 それでは、議事（３）『基礎調査について』、説明願います。

【事務局（AR）】 資料３について説明

【委員長代理】 それでは資料３について、ご意見を頂戴したいと思います。

【委員】 関連計画の整理の項目において、観光協会との連携も考慮していただきたいです。

【事務局（市）】 観光協会が毎年策定している計画に合わせて連携を図っていきたいと考えております。

#### ●議事（４）アンケート調査について

【委員長代理】 それでは、議事（４）『アンケート調査について』、説明願います。

【事務局（AR）】 資料４・５について説明。

【委員長代理】 それでは資料４・５について、ご意見を頂戴したいと思います。

【委員】 観光消費額について、市外で宿泊し、市内で観光した場合、どのように算出しますか。

【事務局（AR）】 観光消費額の調査方法について、国の基準上は、回答者へのアンケートにより把握する方式が採用されています。そのため、注意書きと共に「市内で一人あたりいくら使ったか」を設問でお聞きし、回答は、回答者に委ねる形になります。

【委員】 来訪時期についても、把握すべきではないでしょうか。イベント時などの特定ができれば対策しやすいと思います。

【事務局（AR）】 設問への追記を検討します。

#### ●議事（５）豊川市の観光について

【委員長代理】 10年後の豊川市の観光がどのようになっているとほしいか、各委員より意見を伺いたいと思います。

【委員】 便利で活気がある八幡町と、情緒と歴史のある旧市街地、そして先端の農業が調和した街であってほしいです。住み続けたい、訪れたいと思ってもらえる、美しいもののために豊川に行こうという気持ちを、県外の方にも持っていただきたいです。

1点目として、豊橋市のemCAMPUSのような、まちなか広場が駅前にあると良いと思います。図書館機能があり、イベントも開催できるような、市民や観光客が休める場所があると良いです。

2点目として、稲荷公園にも、本宮の湯のように、まちの人や観光客が気軽に入れる場所があると良いと思います。

3点目として、赤塚山に有料のフラワーパークがあると良いと思います。観光客が立ち寄れる場所をもう一つ増やしたいです。美しい花を見ながら、全国トップクラ

スの農業資源が豊川市にはあるため、バラ、いちご、トマトなどを活かした観光農園、直売所、農家レストランなどがあると良いと思います。

4点目として、本宮山についてです。本宮山のお清水舎で清掃活動を行っています。中学生の遠足など、一般の方も通過しています。本宮山は地域の方々に人気があり、県外の方々にも「健康の山 本宮山」としてPRできるのではないかと思います。

5点目として、豊川稲荷の御開帳についてです。10年後には御開帳が終わっているため、その後のにぎわいづくりに懸念があります。「正五九は豊川稲荷に来る」といったPRをしてはどうかと思います。

東名高速道路に店舗を構えています。NEXCO 中日本の方からも、御開帳を宣伝してはどうかと言われています。今後は、商工会議所と NEXCO 中日本で話し合いの場を設ける予定です。大企業とも連携しながら、豊川稲荷を宣伝していきたいです。10年後も活気あふれる豊川稲荷でいてほしいと思います。

【委員】10年スパンで考えた際に、予算のこともあるため、優先順位が大切です。まずは豊川市の主要となる観光産業である、豊川稲荷と門前通りの発展を第一とし、そこからエリアを拡大させていくべきです。大きな拠点ができこそ、他のエリアに立ち寄るきっかけにもなり、宿泊数なども付随してくると思います。

【委員】豊川稲荷は今年、72年ぶりに御開帳を迎えるため、手探り状態で受け入れ態勢を整えています。今回の御開帳を機に、新たな魅力を発信し、観光客はもちろん、地元の方々や子供たちが「10年後もまた来たい」と誇れる豊川市にしたいです。豊川市でしか見ることができないもの、お寺でしか味わえないものなど、五感を通して体験できる豊川市になって欲しいと思います。

【委員】800万人という目標数値がどれほどのものか予想はつきませんが、オーバーツーリズムを市民が感じないレベルで、観光業が盛り上がるとう良いと思います。

【委員】外国人観光客はあまり念頭にはなかったですが、伝統的な産業や、農業など、豊川市の観光業などが一堂に会し、子どもからお年寄りまで、多世代が交流できるマルシェのような場が定期的に開催されると良いです。

【委員】交通事業者の視点では、今後さらに高齢化や少子化が進行する中、公共交通の役割がますます重要になってくると考えています。現状では、例えば正月三日など、飯田線も多くのご利用をいただいています。参拝者全体の中ではわずかな割合に過ぎず、多くの方がマイカー利用だと感じています。しかし、高齢化や少子化に加え、若い方のマイカー離れもありますので、公共交通で訪れる方が増えることも想定し、駅から市内各地へ周遊できるような、2次交通についても考えていかなければならないと思います。

【委員】県外向けの旅行を扱う立場として、旅行計画を立てる際には、自然や食べ物など様々な要素を考慮していますが、その中でも主要となる観光地の存在が重要だと感じています。

また、団体旅行では、一定規模の人数を受け入れる箱が必要になります。そのた

め、受け入れ可能な施設があると、旅行場所として比較検討しやすくなります。さらに、豊川稲荷を中心に、食事場所に加えて市内でもう1か所立ち寄れる場所や、観光要素として、花などの季節ごとの魅力があるとより良いと考えています。

【委員】ここ1週間ほど、「日帰り温泉がないか」という問い合わせが増えており、現在は蒲郡市の温泉を案内しています。

また、10年後には人口減少が進むことも懸念されています。特に高齢者が多く、畑や田んぼの作業ができなくなっている状況もあります。

また、京都出身の知り合いの方からも、「豊川の野菜はおいしい」という声を聞いています。そのため、食べ物を活かして豊川へ人を呼び込んだ方が良いのではないかと思います。

後継ぎがないのであれば、一反単位で農地を貸し出すなどの仕組みも必要ではないかと思います。豊川稲荷だけに頼るのではなく、農業資源も活かしていくべきです。愛知県の農業生産は全国8位であり、食べ物にはまだ伸びしろがあるのではないかと感じています。

【委員】オーバーツーリズムについて、豊川市としては、どの程度を基準として考えているのでしょうか。

【事務局（市）】特に指標はございません。

【委員】自身は温泉巡りが趣味であり、豊橋市の「極楽湯」や「ゆのゆ TOYOHASHI」、本宮方面の温泉施設なども利用していますが、土日は非常に混雑しています。一方、蒲郡市には「温泉パスポート」があり、4か所の温泉を1年間利用できて2,600円と安価で、さらに11時・12時頃から入浴できるため、宿泊客が利用する15時前の時間帯はほぼ貸切状態で利用できます。

そのような場所で、利用者に「どこから来たのか」、「今日はどこへ行くのか」などを聞くことがありますが、施設側から周辺観光地を案内される中で、「豊川市へ行ってください」と勧められたという話はほとんど聞きません。

そのため、観光客数の議論とは少し異なりますが、東三河全体を一つのエリアとして捉え、各自治体の観光協会、有識者なども交えながら、地域全体で観光のソリューションを考えられないかと思います。例えば、宿泊は湯谷温泉や蒲郡の温泉地を活用し、そこから豊川稲荷や豊橋市内を巡ってもらうような広域的な周遊の仕組みがあると良いと感じています。

また、仕事上、奥三河地域の自治体の方と話す機会が多いですが、皆さん豊川市の動きに大きな期待を寄せています。マンパワー的にも様々な課題があり、一つの自治体だけではできないことも多いため、豊川市がリードしながら、東三河全体を巻き込んだ形で取り組みを進めてほしいという声があります。

また、温泉施設については、コロナ禍以降、利用者数が回復してきています。自身も極楽湯に関わる機会がありますが、こうした施設をうまく活用しながら観光客を呼び込み、案内していくことが重要だと感じています。

その際、例えば「年間何人以上でオーバーツーリズムとする」といった指標があると、一つの目標として共有しながら取り組みを進めやすくなるのではないかと思います。

【委員】豊川市の方たちには、まずは自分たちのまちの魅力を知り、季節ごとの魅力などを紹介してほしいと思っています。

また、子どもたちが地域のことを学べる機会も重要だと思います。現在は総合学習やインターンシップなど様々な機会がありますが、地元企業がしっかりと受け入れを行い、地域で住み、働いていけるような教育や経験の場をつくってほしいと思います。

観光振興は、単に旅行や温泉だけの話ではなく、様々な産業と結びついています。広域的な視点も必要であり、例えば豊川に勤務している人、豊川に住みながら広域で働いている方、大学進学などで遠方へ出る方にも、豊川のことを思い続けてもらう人を増やしていくことが大切だと思います。そのためには、観光を他人事ではなく、自分事として考える人を増やしていく必要があります。

今後、様々な調査をしっかりと行える仕組みができれば、一つのイベントや事業に対して、経済効果などを数字で示せるようになります。そうすることで、市民の小さな活動であっても、地域全体へ広がる可能性があることを可視化できるのではないかと思います。

また、観光消費額についても、調査会社へ委託しなくても、自分たちでアンケートを実施し、売上等を把握できれば、消費額を算出することができます。そうしたデータが自然に蓄積されるようになれば、観光振興も一つの産業として認められていくのではないかと思います。

観光協会としても、多くの方々と情報共有を行い、市としっかり連携しながら、10年後を見据えた豊川市総合計画の目標実現に向けて取り組んでいきたいと考えています。

【委員】自身は大阪出身で、転勤をきっかけに愛知県へ来ました。その際、豊川に転勤したと答えても、あまり伝わらず、豊川稲荷があるところと言うと伝わります。

また、豊川以外の場所へ行った際にも、「豊川は聞いたことはあるけれど、行ったことはない」という反応が多く、少し寂しく感じています。豊川といえば何があるのか、場所も含めてあまり知られていない印象があります。

豊橋の近くで、新幹線が走っている地域と言うと分かる人もいますが、それでも十分には認知されていません。愛知県というところ、多くの方はまず名古屋を思い浮かべるため、「名古屋に近いんだね」と言われることも多いですが、実際には名古屋まで1時間ほどかかります。そうした意味でも、まだあまり知られていないのではないかと感じています。

10年後は、中期計画ではなく長期的な視点になると思いますので、細かな施策というよりも、「豊川に住んでいます」と言った時に、「良い所ですね」「行ってみたい」と思っていました」と言ってもらえるような、そんなまちになっていけば良いと思います。

【委員】大学で豊川出身と言うと、豊橋に間違われます。また、「豊川には何があるのか」と聞かれた際、豊川稲荷が有名であるという話をしています。ただ、豊川稲荷だけではなく、もう少し“語れるもの”が欲しいとも感じています。

また、若い人を呼び込むためには、大きなイベントを開催するだけではなく、食べ

物やアクティビティなど、観光として見るだけではなく自分自身が参加して楽しめる体験型のコンテンツがもっとあると良いと思います。

豊川市には様々なスポットがあると思うので、それぞれの場所に対して、周辺環境も含めた魅力づくりや、人を呼び込むための工夫をさらに行っていけると良いのではないかと感じています。

【委員】 スポーツ振興も観光と結びつけ、さらに盛り上げていきたいです。

【事務局（市）】 貴重なご意見を多数いただき、ありがとうございました。共感できるご意見が多数ある一方で、マンパワーやコスト面などから、実現が難しい部分もあります。

今後は、豊川市として何を優先し、どの分野に重点的に取り組んでいくのかをしっかりと考えていく必要があると感じています。

本日いただいたご意見を参考にしながら、今後の取り組みについて検討していきたいと思います。

#### ●議事（6）その他について

【委員長代理】 それでは、議事（6）『その他』について、説明願います。

【事務局（市）】 今後の委員会のスケジュールについて説明。

【委員長代理】 議事については以上とさせていただきます。ご協力いただき誠にありがとうございました。